

# うちの学校 紹介しまあ!



その22

東浦中学校



弁論の様子

東浦中学校は、東経135度の子午線が走る街を校区とし、校舎からは大阪湾を一望できます。背後に津名丘陵をたたえ、海と山に恵まれた自然豊かな環境と温暖な気候が、心優しく真面目な生徒の土壌を育んでいます。



校舎

本校は、平成27・28年度に「キャリアノート活用に関する研究事業」に取り組み、「私」という主語で語り、自らを表現できる生徒の育成に力を入れています。その結果、毎年恒例の弁論では、将来の自分を見据え、自分の言葉で「夢」や「生き方」について堂々と語る生徒が増えてきました。

今年度は、コロナ禍による新たな生活様式の下での学校生活が続いています。そんな時だからこそ「自分も他の人も同時に大切にしたい」という視点で様々な取組を進めています。そうした「人を大切にする」取組の一端は、朝の生徒玄関でも見られます。登校時、下駄箱での「密」を避け、少し離れた場所の上履きに履き替える生徒の姿に、人を思う気持ちがカタチとなり表れています。

ぼんちん 手話 第50回



手話は、ろうあ者が日常生活しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介します。

**パス**

両手の人差し指の先を向かい合わせ、親指を立てて前に進める。

### ろうあ者の日常生活を知ろう②⑥

コロナ禍でよかった面は少ないですが、国や県知事等の会見、公式発表の際には手話通訳者が付いており、情報を得ることができます。

また、マスクをつけたままでは聴覚障害者にとっては口の動きが読み取れないことが報告され、ある県知事は会見の時にマスクを外して対応してくれました。

少しずつ聴覚障害者への理解がされていることを実感しています。

協力：淡路聴力障害者協会 手話サークル津名

### くらしのトピックス②② 淡路市社会福祉協議会

#### 「コロナ禍」を考える ～何気ない日常～

新型コロナウイルス感染症が、私たちの生活に影響を与えるようになって1年。このような状態が数年単位で続くとの見解もあり、まだまだ、先の見通せない状況です。

昨年を振り返ってみると、中止になった地域の行事や集まりの場は数えきれないほどあったと思います。

一方、コロナ禍といえど、マスクをつけていつもの時間に、2～3人で散歩をしている姿や、庭先で立ち話をしている普段と変わらない姿も目にします。地域ぐるみの大きな行事の開催は難しくても、私たちが暮らす環境(豊かな自然)だから、コロナ禍以前と変わらずつながり続けることができることも、たくさんあるんだと改めて気づかされます。

今後も、十分な感染対策と感染状況に注意を払いながら、何気ない日常にあるお互いをおもいやる気持ちは、コロナに負けたいようにしたいと思います。